

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



4月のスタディツアーで訪問した代王城鎮の小学校では英語の授業中でした。

### Contents

- 第25回総会のお知らせ ..... P 2
- 2019 黄土高原スタディツアーのご案内 ..... P 2
- 自然と親しむ会・東北海岸林再生活動のご案内 ... P 3
- 2019 黄土高原スタディツアー日誌より ..... P 4 ~ 5
- 大同緑化協力 25年の軌跡 ..... P 6

2019.5  
187

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



## 緑の地球ネットワーク 第25回総会のお知らせ

緑の地球ネットワーク第25回総会を開催します。

1992年にスタートした中国黄土高原での緑化活動は、山西省大同市から河北省張家口市蔚県へ活動場所を移して3年目を迎えました。今年も代王城鎮四村での植樹をおこないます。

また、壺湿地公園で蔚県では現在蔚県壺流河国家湿地公園(1740ha)の計画が進んでいますが、湿地の保護の重要な目的に渡り鳥の保護があります。中国側の依頼を受け、昨年11月に専門家による調査をおこないました。今回、総会前の記念講演にはその野鳥調査に参加していただいた高田直俊さんに『蔚県壺流河湿地環境の保全提案』と題し、野鳥調査から見てきたことなどについてお話いただきます。6月にも探鳥ツアーを派遣するなど、GENの活動は

緑化だけでなく環境協力にへ広がってきています。

もちろん8月にはスタディツアーをおこない、現地の人たちと緑化活動に汗を流し、交流を深めます。今年は蔚県のほか大同へも訪問します。GENの今後の活動について知っていただき、意見交換をしたいと思っておりますので、ぜひ総会にご参加ください。

会員のみなさんには後日資料をお送りします。

\* \* \* \* \*

### 【緑の地球ネットワーク

### 第25回総会】

○日程：2019年6月8日(土) 13時30分～16時40分

○会場：大阪産業創造館5階 研修室A・B (大阪市中央区本町1-4-5 tel. 06-6264-9911 大阪メトロ中央線・堺筋

線「堺筋本町駅」1番出口より徒歩5分)

○記念講演：13時30分～15時

『蔚県の湿地環境の保全提案』

○講師：高田直俊さん(大阪市立大学名誉教授)

○参加費：500円(GEN会員無料)

○総会：15時20分～16時40分

### 【総会終了後の懇親会のご案内】

◇時間：17時～19時

◇会場：魚盛本町イトウビル店(大阪市中央区南本町3-6-14本町イトウビルB2 tel. 06-3469-8119)

◇参加費：4,000円前後

◇申込み：6月5日(水)までにGEN事務所まで。会員以外の方もご参加いただけます。



## 2019 黄土高原スタディツアー 参加者募集

蔚県での緑化協力は3年目となり、徐々にお互いの理解が深まってきました。今年も代王城鎮での植樹はもちろん、明清時代の建物が残る暖泉鎮見学や西密頭村での交流もおこないます。

また、今年は蔚県のほか大同も訪問し、南天門自然植物園、実験林場カササギの森などを訪問します。蔚



県と大同、それぞれの良さを感じるのであるツアーです。この機会にぜひご参加ください。

○日程：2019年8月24日(土)～30日(金) (6泊7日)

○訪問地：中国河北省張家口市蔚県、山西省大同市(北京経由)

○定員：30名程度

○最少催行人員：10名

○旅行代金：214,900円(学生割引20,000円)

※中国国際航空利用予定

※国際航空運賃、空港使用料、国際観光旅客税、中国国内の交通費/食費/宿泊費を含みます。旅券取得費用、海外旅行保険、燃油特別付加運賃、個人行動時の費用は含みません。



※関西国際空港発着

※東京発着、北京合流希望のかたはご相談ください。

※GEN年会費(一般12,000円、学生3,000円)を別途お支払いください。

○添乗員：同行しません。GENスタッフ1名が関西空港から同行します。

○申込み：7月8日(月)

## 5 年度の 認定更新が 決まりました

GENが税制上の優遇を受ける認定NPO法人に認定されたのは2005年でした。最初の3回は国税庁長官による認定で、大阪国税局の審査を受けていましたが、2012年からは所轄庁の大阪市による認定になりました。

昨年11月に大阪市に更新申請書を提出し、今年2月に事務所で実地調査を受け、3月15日付けで認定更新が決ま

りました。有効期限は2024年4月8日までです。

個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄附金で、確定申告が必要です。

大阪府民に対しては府民税の税控除も適応されます。法人による寄附金に対しては一般寄附金の損金算入限度額とは別に損金算入が認められます。GENの場合寄附となるのは、緑化基金、運営寄付、おまかせ寄付と会費のうち一口を超える部分、賛助会費から12,000円をひいた金額です。

### 参加者募集

### GEN 自然と親しむ会

### 前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑩ 高槻市 摂津峡を歩く

毎回ご好評いただいている「野の道」シリーズ、2019年度最初は摂津峡を訪問します。

摂津峡は高槻市流れる芥川の上流域に広がる自然豊かな渓谷で、「大阪みどりの100選」のひとつに選ばれています。木漏れ日のそそぐ林間道を歩きながら、前中代表の解説で自然観察を楽しみます。

○日時：2019年5月26日(日) 10時～14時ごろまで

○場所：大阪府高槻市(神峰山口から川沿いを下って塚脇までのコースを

歩きます)

○集合：JR高槻駅中央口改札集合(駅からバスで神峰山口まで移動します)

○案内：前中久行さん(GEN代表)

○参加費：500円(保険料を含む、別途バス代片道220円がかかります)

○持ち物：ハイキングできる服装・靴、弁当、飲み物、帽子、敷物、雨具

○定員：20名程度

○申込み：5月22日(水)までにGEN事務所までお名前、ご住所、連絡先をお知らせください。

※小雨決行

### 参加者募集

### GEN 自然と親しむ会

### 六甲山 自然観察会

六甲山の自然観察会に参加しませんか。今回は六甲ガイドハウスのボランティアガイドの方に案内していただき、季節の花や生き物など六甲の自然に触れながら1時間ほどの散策を楽しみます。その後希望する方のみ、六甲自生植物や世界の高山植物を紹介している六甲高山植物園を訪問します。

○日時：7月7日(日) 9時30分～15時ごろまで

○場所：六甲山ガイドハウス周辺、六甲高山植物園

○集合：9時30分に阪急六甲駅(駅からバスと六甲ケーブルを使って移動します)

○参加費：500円(保険料を含む、バス代片道210円、六甲ケーブル代片道590円、高山植物園入場料620円が別途必要)

○定員：20名程度

## ご参加ください! 東北海岸林 再生活動

GENは東日本大震災の津波被害を受けた東北海岸林再生活動をおこなっています。今年も宮城県名取市のゆりりん愛護会の植樹祭に参加するほか、被災地見学をおこないます。

これまでは午前中の植樹だけでしたが、今年はいく少しお手伝いをしようと除草もおこないます。

○日程：9月19日(木) 昼ごろ～20日(金) 夕方ごろまで。仙台空港集合、解散

○費用：未定(前年実績12,000円)(ホテル代、レンタカー代含む。昼食、夕食代は含まない)費用は参加人数によって変動します。

○定員：10名

○内容：ゆりりん愛護会の植樹祭に参加、被災地見学。参加ご希望の方はGEN事務所までお早めにお知らせください。

## 助成金が 決まりました

公益信託 経団連自然保護基金の2019年度支援事業として緑の地球ネットワークの「河北省蔚県における樹木見本園の建設」に1,850,000円の助成が決まりました。玉壺湿地公園のなかの蔚州郷土樹木園の建設に生かされます。

○持ち物：弁当、飲み物、敷物、雨具、帽子、ハイキングできる服装・靴

○申込み：7月3日(水)までにGEN事務所へお名前、ご住所、ご連絡先をお知らせください。



# 2019年 黄土高原スタディツアー報告

2019年春は4月6日～11日の日程で黄土高原スタディツアーがおこなわれ、20名が参加しました。植樹活動はもちろん、子供や村の人との交流や雪景色まで見ることができたツアーとなりました。今号ではツアー日誌から抜粋してご紹介します。



西古堡は観光地であり、生活の場でもある

## ●4月7日(日)

【伊藤善子記】

古い歴史を学んだ後、食事をはさんで、暖泉鎮西古堡を見学しました。はじめて参加の私には、すべてが珍しく、なつかしい風景もありました。蔚州では、昔日本でも八百屋さんが夕方に住宅地を回っていたオート三輪が人びとの足となって活躍していました。小さい頃、親に「バタバタが来たら、キャベツ買いに行つて」と言われたことを思い出します。ほとんどが荷物を運んでいましたが、中には子どもの送り迎えの女性の姿もありました。軽が走っていないのはオート三輪があるからなのかとも思います。

午後になると雲が出はじめ、風が土を巻き上げるのが見えました。チリよけ眼鏡とマスクをして古堡に登ります。南門を入ると道教と仏教の仏様、神様がまつてある「廟」がいくつもあり、極彩色の像が鎮座しています。読経が録音で流されて、「ゲンキン」だなあと思いました。はたして賽銭箱に何か



市場の野菜や果物に興味津々

入っているのだろうか。疑問。

## ●4月8日(月)

【佐久間章子記】

今日はやっとこ植樹の日が来た。早朝目覚めたので7時集合の市場見学に行くことにしたが、外はくもりで強風、寒い。重ね着してしのぎました。

市場は思ったより小さく、野菜、果物、肉、魚、雑貨等の屋台が数軒ずつ出ているだけでしたが、大きいイチゴや、ナス、キノコ、ピーマンにびっくり。それに比べて小ぶりのキャベツ、小っちゃなマンゴー等、気候なのか品種なのか、日本でもみかけるけれど違いのある野菜にびっくり。にわとりはトサカまできれいに皮をむいてあり、魚は生きたままをその場でぶつ切りと楽しい見学でした。



市場で生きたまま売られている魚



現地のボランティアとマツを植える

9時出発でいよいよ植樹。見渡す限りの広い黄土を想像していたら、割と近隣に建物もある、枯れたラクダ草がチョコチョコ生えている土地でした。

既に一列に50cmほどの穴が穿っており、130cmほどのマツの木が穴に置いてありました。簡単な作業ですが意外にゴロタ石も多く、土は重くて、汗をかくようになりました。小一時間ほど作業をして終わりでした。

【佐野祥和記】

その後は小学校の見学と交流です。あいさつが一通り終わったあと、最初に行った教室が5年生のクラスで英語の授業でした。びっくりしました。子どもたちの顔、目がみんな生き生きしていて、勉学に励んでいるという空気が部屋のちいっばい。こんな教育をしている中国はいまからどんな風に発展してゆくのか想像もつきませんが、世界で一番になることはそう遠くはないと思うと同時に、日本はこれから先大丈夫かなあと思ったところです。次の教室が音楽の時間で、クラスのほぼ全員(一部、ドラムなどあり)がアコーディオンの演奏。これも素晴らしかった。



こどもたちの演奏

聞いていて、純粋な子どもたちの一所懸命さに涙が出そうになりました。

## ●4月9日(火)

【吉原祐貴記】

ツアー4日目はまさかの雪！ 寒い！



昨日積もった雪がまだ残るなか植樹作業

昨日は汗をかいて植樹をしたのに！日本との気候の違いに驚いた。

AM、湿地公園での植樹作業。現場についた頃には雪も落ち着き、予定通り作業できるとのことで一安心。作業開始前、昨日とは違い公園で人を見る場所なので、より丁寧に植えるようにと



村の人と一緒に太極拳

指示があった。今日はボタンの苗木を植えた。まだ幹と枝しかないほんの小さな苗木のため、成長してどのような花を咲かせるかとても楽しみだ！ ツアー参加者との会話の中で「自分たちが死んでも木は残るね」ということが印象に残った。自分たちが植樹をした



地元のボランティアも参加して植樹活動のあと記念撮影



明るく元気な西窰頭村のみなさんと一緒に

ことで、中国の方の心が豊かになったり、湿地を訪れる渡り鳥が安心して羽を休めることができたなら嬉しいなと思った。PM、農村で村人との交流。貧困からの脱却を政府と協働で進めているモデルにもなっている農村。村人の意識改革から始めたという話のとおり、村の方々が笑顔で生き生きしていたのが印象的



素朴でおいしい農村のごはんで大満足

だった！ 村人との交流会の中で、急遽一芸を披露することになり(無茶振りだ!) 完全なアドリブで合気道の達人(後輩)とやられる役(私)をやった。喜んでくれたかはわからないが、よい思い出になったとともに、こういう時のためにも何かしらの芸を身につけておく必要があると思った。(中略) 渡航前は慣れない環境や食事でお腹が痛くなるのではと心配したが、こちらに来てからのほうが体調が良い! 食事は野菜や穀物中心でメニューが豊富でバランスが取れている。朝はホテルの近くの公園で現地の人に混ざって体操をする。いただいたミネラルウォーターも美味しい! 実に健康的な生活を過ごしている。ただし白酒の飲みすぎは注意。



大迫力の打樹花も見学しました



# 大同緑化協力 25 年の軌跡

## 雨と草

GEN の山西省大同市での 25 年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で 14 回目です。(高見邦雄)

### 【大同の植林はラクだったって？】

私は最近「大同での植林はラクだったなあ」とよく考えますし、口にもします。現地でも苦闘してきた中国の関係者がそれを知ったら、「なにを気楽なことを！」といってカミナリを落とすことでしょう。

そう思うようになったのは、東日本大震災のあと東北の海岸林再生の活動に参加し、それから今年の春、堺 7-3 区の産業廃棄物埋め立て地の「共生の森」に参加させてもらったからです。

大同での植林に困難がなかったわけではありません。いちばん大きな障害は、なんといっても雨がこないこと、とりわけ苗を植える春に雨がこないことです。この時期は風も強く、乾ききっています。マツの苗は根を 10 分間、日にさらして乾燥させるだけでも、活着率はがた落ちになるそう。

### 【大同の技術者たちの工夫】

そんななかで地元の技術者は「雨期整地」と呼ばれる独特の工夫をしました。等高線に沿って幅 60cm、深さ 30cm ほどの溝を掘り、掘り出した土で溝の下手に高さ 30cm の土手をつくり、それを 3m ほどの間隔で繰り返す。その作業を雨の多い 6 月後半からの 3 か月に実施するわけです。

普通だと降った雨は斜面を伝わって流れ去るだけで、ときに土まで連れ去ります。この地方で深刻な水土流失です。ところがこのような整地をすると、降った雨は溝にたまり、やがて土中に



溝の底にマツを植える

浸透します。8 月も後半になると気温が下がり、10 月になると氷点下が記録され、土中の水は凍結して春まで保たれるわけです。

3 月末から 4 月上旬にかけて、溝の底に小さなマツ苗を植えます。そのころには地温も上昇し、凍結から融けた水が苗を育てます。春に乏しい雨を前年の雨期の雨水で補うわけ。そんな工夫が必要になるほど、春には雨が降りません。

### 【悩ましい草はなかった】

では、なにがラクだったのでしょうか。日本は雨が多く、初期の活着に苦労はありません。ところが草の成長がすごく、油断をするとマツの苗はすっぽり覆われてしまいます。やっかいなのが蔓草で、東北の海岸林再生でも、堺の共生の森でも、クズがすごいですね。

それからツルマメ。霊丘の南天門自然植物園でははじめてみて、それがダイズの原種であることを前中久先生に教わりました。日本では淀川の土手で数本をみつめて大感激したんですけど、そのツルマメが東北でマツ苗にたくさんからんでいます。

それからマツは痩せ地と乾燥に強く、逆に土が肥えると機嫌が悪くなり、病害虫のために枯れたりします。そうならないためには落ち葉を取り去る必要がありますけど、大同では農家の人が生活燃料にするために持ち帰ります。日本でもかつてはそうだったように。

そんなわけで、大同では初期の活着は難しかったんですけど、そのあとの管理はラクなのです。



せつかく植えた苗を覆い隠すクズ

## 開花が楽しみな郷の棚田の黄花菜

### 川島 和義 (GEN 副代表)

3 月 31 日、GEN 自然と親しむ会 泉佐野丘陵緑地「郷の棚田」懐かしい作物や花などを植えて楽しむをおこない、19 名が参加しました。

3 月 31 日、泉佐野丘陵緑地の「棚田」での活動に参加した。この数日間の天候は不安定だったが、前中代表(晴れ男)のおかげか晴天に恵まれた日になった。

この緑地は、関西空港周辺地域における新たな産業基盤を整備しようと計画された泉佐野コスモポリス事業が破綻し、その事業のために買収した土地を活用しようと建設された大阪府営の公園だそう。公園内の元は棚田だったところが、応募した市民によって花などを植えることができる場所として提供されている。

GEN も、前中代表が公園の運営会議メンバーであり、紹介されて 2016 年から毎年 1 枚の棚田を利用して「黄花

菜」を中心に数種の植物を植えている。黄花菜は、ユウスゲの仲間の中国野菜(?)で、食用に花の蕾を乾燥したものは金針菜と呼ばれる。油炒めなどにして食べると甘みがあって美味しいが、夏に咲く黄色の大きな花が美しいので、蕾で食べるのはもったいない気もする。

今回は、公園側からもう 1 枚下の棚田にも黄花菜を植えてほしいとの要請があり、人手が足りるか心配されたが、19 人(子供 3 人を含む)の参加があり、無事に正午までに植えることができた。作業は、植えてある黄花菜を掘り出してひとつを 3~4 株に分け、1 株を元の場所に植えて残りを下の棚田に植えるというものだ。下の棚田には畝が作られており、提供(7 ページに続く)

### 黄土高原史話 <93>

## 東魏・北齊の仏教界(上)

私事ながら、ときおり参禅していた寺の老師が 3 年まえ遷化。自宅でもつづけていた坐禅が、それ以後は途絶えがちに。喝だ~!

それはともかく、本シリーズ <89> で述べたごとく、『洛陽伽藍記』の著者楊衒之は、造寺・造像や仏典の講釈よりも、坐禅による修行を評価していたらしい。閻魔王による審判の例を 5 つあげて、極楽に行くか地獄に落ちるかかを境い目を、坐禅・誦経(お経を唱えること)に置いているからだ。そのエピソードはすでに紹介したので省略するが、

「これより後、都の比丘(僧侶)はみな坐禅・誦経にはげみ、講釈を問題にしなくなった」(巻 2)

と。しかし、事実は必ずしもそうではなかったようだ。

そもそも中国禅宗の初祖とされるの

(<6 ページより) された油粕と化成肥料を撒いて植えた。作業の指揮は、最初に黄花菜の株を提供してくれた永野さんが担ってくれた。

その後、広場で昼食を済ませ、前中代表の案内で園内を散策した。大きな山桜が台風 21 号の影響で枝が折れてスリムになっていたが、ともかく元気そうで見頃の花を咲かせており、ちょっと安心した。帰りのバスの時間があって少し駆け足での散策になったが、アオモジなども教えてもらえてそれなりに楽しんだ。雑草も教えてもらったがほとんど覚えられなかった。前中先生、どうもすみません。土日・祝日には泉佐野駅から日根野駅を経由して緑地に行く無料のバスが運行しているので、黄花菜の咲いている景色を見ようと思われ方は、その時期にどうぞ!



### 谷口 義介 (GEN 会員)

は、菩提達磨(摩)。いうところのダルマさんだ。

唐・道宣の『続高僧伝』巻 16 によると、南インドのバラモン出身。いまのベトナム経由で南朝・宋にやってきて、のち北魏に至った、と。これに対し、『伽藍記』巻 1 では、ペルシャ生れの西域人で、「もろもろの国を歴遊して、足の及ばぬ所はない」、とする。つまり、北魏に至ったコースが両者で異なっているわけだ。それはともかく、『伽藍記』によると、壯麗をきわめた永寧寺を見て讚嘆これ久しくしたというから、同寺の存在したころ(516 年完成~527 年焼亡)、洛陽にいたことになる。ただし、『伽藍記』・『続高僧伝』とも、150 歳余りの長命を保ったとしているのは、まゆつばものか。

『続高僧伝』達磨伝によると、北魏の地に「禅教」を広めようとしたが、「多く譏謗(そしり)を生じ」た。わずかに「識真の士」のみ、その教えを奉じた、という。

その衣鉢をついだのが慧可(僧可)で、禅宗第二祖とされる。はじめ儒教や老荘を学んだが、40 歳のときより 6 年間、達磨のもとで親しく教えを受けた。師の没後(毒殺されたとも)、東魏・孝静帝の天平の初年(534)、都の鄴に移って講苑を開いたが、その説くところを「魔語なり」と断じて、激しく誹謗する僧もいたという(『続高僧伝』巻 16)。

## 本の紹介

『明恵と龍になった女』谷口義介著 / 法蔵館 / 四六判 186 頁 1,500 円 + 税

本誌連載の『黄土高原史話』でおなじみの谷口義介先生の新著のご紹介です。

京都・高山寺の名僧明恵が描かせた『華嚴宗祖師絵伝』(国宝)には、龍になった美女善妙が登場し、高山寺では今も善妙神立像(重文)を祀っています。彼女のルーツを求めて韓国

すなわち、北魏の洛陽から東魏の鄴では、「比丘はみな坐禅・誦経にはげ」んだわけではなく、彼らはいわば少数派だったのだ。むしろ、相変わらず「講釈を問題」とする伝統派が大勢を占めていたとってよいだろう。そこでは、各種仏典の総合研究が専門的学僧のあいだで行なわれ、学派仏教を生み、講述の席が競われていた。

楊衒之は必ずしも仏教信者ではなかったようだが、仏教に関する知識が並でないことは、『伽藍記』を一読すれば明らかだ。北魏の洛陽と東魏の鄴という仏教の栄えた都市で役人生活を送っている。こうした人物が当時の仏教界の動向を知らぬわけがない。

ではなぜ、楊氏は事実と反するようなことを書いたのか。

菩提達磨と楊衒之が問答を交わしたという伝説があるように、楊氏が坐禅修行に好意的だったことはたしかだろう。一方、当時の仏教界に対しては批判的ではなかったか。それゆえ、“坐禅派が主流になり、講釈派が消滅した”といった書き方は、楊氏の託した願望か、それとも痛烈なアイロニーか。

東魏から北齊にかけて、仏教はますます全盛に向かっていた。しかし、北齊の史官魏収(506~572)の『魏書』(「釈老志」)によれば、爛熟の極み、頽廃が進んでいたことがうかがえる。



から中国を訪ね、善妙化龍説話が形成されてくる背景を探り、あわせて明恵創建の善妙寺につどった尼たちの信仰の諸相を明らかにします。



エコライフフェア  
2019

6月は環境月間です。環境についてちょっと考えるイベントに参加しませんか。

- 日時：6月1日(土) 10時30分～17時、6月2日(日) 10時～16時30分
- 会場：代々木公園ケヤキ並木 (NHKホール前/イベント広場) (渋谷区代々木神園町、神南2丁目 tel. 03-3469-6081 JR山手線「原宿駅」表参道徒歩3分)
- 入場無料
- 主催：環境省
- 問合せ：エコライフフェア2019事務局 (ダスキンセントラル麻布十番イベントセンター内 〒106-0045 東京都港区麻布十番1-5-5 tel. 03-3405-1310 e-mail: info@ecolifefair.com URL http://ecolifefair.env.go.jp/)

第20回  
NGOスタディツアー  
合同説明会

NGOのスタディツアーについて直接

\* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
\* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

話が聞ける説明会です。GENも参加します。

- 日時：6月15日(土) 13時30分～17時 (事前申し込み不要、入退場自由)
- 会場：龍谷大学大阪梅田キャンパス (大阪市北区梅田2-2-2 ヒルトンプラザウエストオフィスタワー14階)
- 参加費：無料
- タイムテーブル：13時30分 開場・受付開始 / 13時45分開会の挨拶 / 13時50分「スタディツアーってなに？」 / 14時各ブースで説明を聞こう！ / 16時30分プレゼント抽選会 / 17時終了
- 共催：龍谷大学ボランティア・NPOセンター/特定非営利活動法人 関西NGO協議会/株式会社マイチケット
- 問合せ：株式会社マイチケット (tel. 06-4869-3444 e-mail info@myticket.jp URL: http://www.myticket.jp/guidance/study-tour-guidance)

小夏とたまねぎの  
ご案内

今年もおいしい小夏とたまねぎはいかがですか。無農薬のじゃがいももぜ

ひお試してください。

◎土佐小夏

|   |        |        |
|---|--------|--------|
| A | 5kg    | 4,400円 |
| B | 3kg    | 2,800円 |
| C | 家庭用5kg | 3,400円 |

◎おいしい玉葱 (低農薬、有機肥料)

|       |     |        |
|-------|-----|--------|
| 白たまねぎ | 5kg | 2,200円 |
| 〃     | 3kg | 1,400円 |

◎おいしいじゃがいも (とうや) (無農薬)

|       |     |        |
|-------|-----|--------|
| じゃがいも | 5kg | 2,200円 |
| 〃     | 3kg | 1,400円 |

※送料別途。関東860円 関西650円 (20kgまで)

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GENの紹介』とひとことそえてください。

【注文先】 田中農園 田中隆一さん  
(〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 tel./fax.0887-29-2500 e-mail tanakan3@cronos.ocn.ne.jp)

編集後記

4月になり、なにか新しいことを始めようとしてしばらく休んでいたラジオ中国語講座を再開しましたが、なかなか頭に入らず苦戦中。翻訳エンジンのほうがよっぽど優秀です。(河本)